

成熟とは、
反応を消すことではない。
最小化することである。

人は、強い刺激にさらされると、
身体の奥で過剰に反応する。

心拍は跳ね、
神経は鳴り、
世界は拡張する。

それは、
生存の側にある反応だ。

しかしそれは、
感受性の高さではない。

保たれていない状態が、
反応を膨らませているだけだ。

過剰な揺れは、
未だ安定していない合図である。

経験は、
神経の振れ幅を静かに整えていく。

—— ここは、まだ保たれている。
—— ここで、崩壊は起きない。

その判断が、
反応を縮小させる。

成熟した神経は、
一拍だけ応答する。

ドクン、と。

それ以上は、続かない。

必要な分だけ反応し、
沈黙に戻る。

それが、
安定した存在のリズムである。

音が大きくても、

内側は、静かていられる。

Edition — 価値観の航路
別景：応答の最小単位

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026